



# REINANZAKA SCOUT CLUB



2023年  
12月1日号

発行：霊南坂スカウトクラブ／日本基督教団霊南坂教会内  
〒107-0052 東京都港区赤坂 1-14-3  
<http://reinzaka-sc.o.oo7.jp/>

No. 60

## 「少年期の充実した日々」

田中新二

年をとると1年経つのが早い」とよく言われますが、80歳を過ぎると特に早く感じられ、来年3月には“米寿”（88歳）を迎えます。なぜ早く感じるのでしょうか。



19世紀のフランスの哲学者ポール・ジャネーとその甥の心理学者ピエール・ジャネーにより提唱された「ジャネーの法則」によると「感じられる時間の長さは、年齢と反比例的な関係にある」と言います。「同じ1年であっても、10歳の子供にとっては人生の10分の1であり、60歳の大人にとっては60分の1です。年齢に対する比が小さいほど時間を短く感じるので、加齢によって時間を短く感じる・・・というわけです。

この観点から私の少年期を振り返ると、スカウト活動はとても新鮮で充実していたように思います。この充実した時間と様々な体験の積み重ねが、後に自分の好きな道を歩むことが出来た原動力ではないかと思っています。

12歳の時（1948年）霊南坂スカウト（東京第4隊）に入隊し、優れた先輩と仲間にもまれて楽しいスカウト活動が出来ました。16歳の時（1952年）スカウトの進歩制度に“1級”進級章が制定されて最初の“1級スカウト”になり、記憶では翌年“菊スカウト”になることが出来ました。これは我々霊南坂スカウトの指導者が優れていたからだと思います。毎週、土曜日は旧霊南坂教会の鐘楼でボーイスカウトの集会、日曜日は朝9時から教会学校に集い、10時から日曜礼拝に参加していました。季節ごとの訓練では蔵王でのキャンプや、深夜に熱海駅を出発して徒歩で十国峠を越えて早朝、芦ノ湖にゴールするオーバーナイトハイキングなどが懐かしく脳裏に浮かびます。赤い羽根募金など社会奉仕、そして人命救助など進級課程の訓練で充実した毎日でした。同じ時期、中学と高校では放送部に属し校内放送や運動会、学芸会などでマイクを離さない放送大好き人間になっていました。その結果が後年、赤坂のテレビ局に就職できてテレビ番組を作るプロデューサーになりました。妹の富江は小学6年生のころガールスカウトに参加し、成人して

ボーイスカウトの私の先輩である今田富士雄氏と結婚し霊南坂スカウト同士の結婚第一号となりました。私は1968年2月22日ベーデン・パウエル卿の誕生日に霊南坂教会旧礼拝堂で小崎道雄先生の司式で結婚式を行わせていただきました。

社会人となり好きな仕事に専念し、気が付けば還暦（60歳）を過ぎていました。久しぶりにスカウトクラブ主催の葛西臨海公園バスピクニックに参加して、約45年ぶりにスカウト活動に触れ、以後スカウトクラブのプログラムに参加するようになり、この会報の編集を約13年間担当しました。2008年8月には那須野営場で霊南坂スカウト60周年記念合同キャンプを開催、スカウトクラブのメンバーはシェフの正装で山高帽子をかぶりブッフェを開設、スカウトに夕食を提供しました。沢山の現役スカウトの笑顔に接した時、私自身の心もスカウトにかえった楽しいイベントでした。加齢とともに1年の経過は早いですが、少年期の充実した日々の記憶は

“Once a Scout , Always a Scout”・・・と今も輝いています。

スカウトクラブでは何時でもあなたの参加を歓迎します。スカウト活動の楽しさをもう一度呼び起こしてください。



“Once a Scout , Always a Scout”  
(キッチナー元帥の言葉)

「一度（ひとたび）スカウトに  
誓（ちかい）をたてて なりし身みは  
いつもいつもスカウトだ」  
(中村 知・詩)

25回世界スカウトジャンボリー感想文



スケジュール：2023年8月1日～8月12日  
 テーマ：「Draw your Dream!」  
 (あなたの夢を描こう！)  
 参加国・人数：150ヶ国、4万3000人  
 日本から1568人

ベンチャースカウト隊 杉本 幸之介



私は7月30日から8月14日までセマングムの世界スカウトジャンボリーに参加しました。

7月30日に羽田空港にバスで到着した時は初めての海外渡航に緊張していましたが、派遣隊の

スカウトやメキシコのスカウトとの交流を楽しみ、緊張をほぐすことができました。メキシコのスカウトとババ抜きを楽しみました。そこで初めて知ったのですが、ババ抜きは英語圏では有名らしいのですが、メキシコでは有名でないらしいのでルール説明を頑張っていました。

韓国行きの飛行機はとても揺れており、早速不安になりました。飛行機の機内食にはコチュジャン（韓国赤味噌）がついて来て韓国料理の辛さの片鱗を味わいました。韓国の空港はとても大きくガラス張りで綺麗でした。セマングムまではバスで向かいました。韓国のバスはとても派手で、内装がクラブみたいになっていて運転手さんの運転も豪快でした。バスの中で食べた弁当にはキムチが三種類入っていて一口目で舌を二口目で喉を痛めました。非常に辛かったです。

私の派遣隊は深夜にセマングムの会場に到着して、虫と格闘しながら設営をしました。その夜はとても疲れていたのですぐに寝ました。しかし朝4時にフィリピンかインドネシアのスカウトが爆音で目覚ましをかけていたせいで叩き起こされました。

セマングムでの二日目に開会式があり、終盤では各国の旗と代表スカウトの入場がありました。ウクライナのスカウトの入場時には大歓声が起きていました。

しかし、残念ながら対照的にベラルーシのスカウトの入場時にはブーイングが飛び交っており、観ている側も悲しかったです。

3日目には今回で唯一参加できた通常プログラムである水上アスレチックを楽しみました。当日もとても暑かったのでみんな水を得た魚のようにしゃいでい

ました。しかしながらメガネを沈めてしまったスカウトが数人いて彼らはその後のキャンプ生活で苦労していてとても大変そうでした。

4日目くらいから他国のスカウトとの交流が始まり、双方のバッジやスカーフを交換し合いました。英語圏のスカウトは発音が良すぎて何言ってるのか分からず、逆にアジア圏のスカウトの英語の方が簡単な単語が多く聞き取りやすかったです。最初の方は緊張して上手く喋れなかったのですが、キャンプ生活が続くにつれ他の国のスカウトともある程度は喋れるようになりました。また他国のスカウトとの交換では日本のグッズはとても人気で日本派遣団のネッカチーフをつけていると道ゆくスカウトから「exchange」と問いかけられました。その度に断るのはとても心苦しく、派遣隊の仲間の中ではそれがいやで派遣団ネッカチーフを着けずに大会ネッカチーフを常用する人も多かったです。自分は7日目くらいにスカウトショップの列で居合わせた台湾の女性リーダーの方と雑談しつつ2時間も灼熱の中、並んだのが印象に残っています。

5日目くらいから本格的に暑くなって来て、とても苦しく、午前中は風で風が吹かないため※タープでグッタリとしていることもありました。また少し会場の中心部に行くと救急車がずっと忙しそうに走り回っており、目の前でいきなりスカウトがぶっ倒れたり、とにかく暑かったです。最終的に撤営の日の体感温度は50度という恐ろしい温度になっていました。

台風の接近により中止となってしまい、クインサというお寺に泊まることになりました。お寺の人がとても親切に世話をくださったおかげで、とても快適に過ごすことが出来ました。

ジャンボリーでは各国のスカウトが各ハブのステージで見せ物（ダンスなど）を披露しており、私たちもソーラン節を披露しました。洋楽でダンスの後にソーラン節だったので少々異質でしたが、ウケもよく派遣隊で練習した成果を発揮できたと思います。

今回のジャンボリーでは世界の広さと日本文化の素晴らしさを再認識でき、そして多少の差異はあれど各国のスカウトとはボーイスカウトという共通点があり、その一つの共通点のおかげで交流がしやすい環境ができていたんだと思われました。私は派遣隊の仲間たちとなかを深めたり、外国人とのコミュニケーションについて学ぶことができました。また、韓国の文化や風土を味わうことができ、海を挟んだだけでこんなに変わるのかと思いました。

※昔のフライテント



(メキシコのスカウトとババ抜き)



(文化交流日：お茶について説明)

## 「夏キャンプの思い出」

ブラウニー 部門 吉田有花

夏キャンプで一番印象に残っていることは、「富士さん歩」です。登りは大変でしたが、帰り道の「すな走り」が、雪の上を走っているような感覚で楽しかったです。その他にも、



「川のげんりゅうを訪ねよう」(御殿場YMCA 東山荘)や「小人探し」など、たくさんの経験ができました。夜には、部屋で出し物をしたり、歌を歌ったりしました。最後に、ブラウニーの記念にライトをもらった事が、とても嬉しかったです。

次は、ジュニアにあがり、自分たちでテントをはったりするのでわくわくしています。

ジュニア部門 矢野日香梨

今年の夏キャンプは、三泊四日で川崎市八ヶ岳少年自然の家へ行きました。初日のテント張りは、ペグを打つところが難しく苦戦しましたが、無事にたてることができ嬉しかったです。二日目の朝は、牛乳パックにホットドックとチーズ



(川崎市八ヶ岳少年自然の家)

を入れて焼く※1「カートンドッグ」を作りました。私の牛乳パックだけなかなか燃えなかったのが焦りましたが、最後にはちゃんと燃えつきて、美味しく出来上がりました。そして、昼にはピザを作りました。生地を作る工程が、実験をしているみたいで、とても面白かったです。三日目は、前日に出来なかったキャンプファイヤーを昼間におこないました。「赤ずきんちゃん」のお話にアレンジを加えたレクリエーションで、各々の班の個性が出ていて、とても面白かったです。四日目は、葉っぱや枝を集める借り物競争や※2モルック、ミニ運動会をしました。特に木の棒をたおすモルックは初めてやりましたが、とても楽しいゲームでした。あっという間の四日間でしたが、たくさんを学べたキャンプになりました。

シニア部門 小池晴日

今回、川崎市八ヶ岳少年自然の家で3泊4日のキャンプに行きました。

私にとっては約三年ぶりのキャンプで、また、ジュニアと一緒にキャンプは初めてでした。活動は縦割り班での行動が多く、ジュニアの人との距離感がわからなかったりして、コミュニケーションをとることや、食事を作る時、ジュニアの人にとどこまでやってもらうかの見極めが難しかったです。いろんなことを経験すると楽しいし、経験する必要があると思うけれど、やはり火の周りは危険が伴うと思うと火おこしではなく、

食材を切る役をお願いすることが多かったです。今までのキャンプでは自分が班の中で年下だったことが多く、言われた通りにしか動いていませんでしたし、それで満足していました。でも今回みんなに指示を出す側の立場になってみると、指示を出すだけでも大変に感じました。初めてシニアというみんなをまとめる役になってみて、縦割り班のキャンプで全体の行動を把握する能力や、みんなをまとめる能力がついたと感じました。リーダーの方々の指示を見ると、どんな場面でも楽しい雰囲気の中で自然とみんなが動けるような声がけばかりで、自分もそうなれるよう学んでいきたいと思いました。

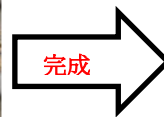
レンジャー部門 向殿まり

八ヶ岳キャンプでは、特に心に残った瞬間が2つありました。まず、天体観測は本当に綺麗で、少し雨が降っていましたが、星座や天空の神秘的な美しさに触れ、心に残りました。この経験は私たちのキャンプの中でも特別でした。キャンプファイヤーも素晴らしかったです。次の日に延期になりましたが、新しい発見がありました。歌やスタンプを久しぶりにやり、団の楽しさを改めて実感しました。これらの瞬間は、私たちがガールスカウトで成長し、新しいことを学ぶ場であることを再確認しました。

来年、もっと多くのジュニアさんが活躍できるようになることを願っています。このような素晴らしいキャンプ経験をできることは、本当に嬉しいことです。貴重な思い出を作る素晴らしい機会でした。

### ※1「カートンドッグ」

牛乳パックを燃やして作るカートンドッグは、ゴミが出ず、環境に優しいキャンプ料理です。



### ※2「モルック」

モルックは、フィンランドのカレリア地方の伝統的なキッカ (kykkä) というゲームを元にしたスポーツです。



## スカウトクラブ 会員のお便り

### ■在仏 50 周年記念随筆『パリの福澤諭吉』 吉田 進



1972年の6月に、僕はパリへやって来た。沖縄が復帰し、ニクソンが訪中した年である。当初5年の予定が、半世紀になってしまった。この間、フランスは変わったし、日本も移ろった。どのようにか？

僕よりさらに110年も前に、パリに滞在した人物がいる。福澤諭吉である。徳川幕府が派遣した「文久遣欧使節団」に、翻訳者として参加した。

言うまでもなく福澤は、明治維新期に西洋文明を取り入れるべきことを主張した男だが、それは日本が独立を保つために必要と考えたからだ（「今の日本人を文明に進めるは、この国の独立を保たんがためのみ。故に、国の独立は目的なり、国民の文明はこの目的に達するの術なり」『文明論の概略』）。おかげでわが国は、アジア諸国中タイと並んで、欧米の植民地にならずに済んだ唯2つの例となった。

ここで福澤が、西洋文明の摂取を方便と捉えていると同時に、欧米を絶対視しているのではないことも、極めて重要である（「西洋諸国を文明というといえども、正しく今の世界にありてこの名を下だすべきのみ」同書）。あの時点では、西洋に分があった、と言うのである。

福澤はだから、パリで西洋文明が何たるかを、精力的に見聞した。たとえば病院を訪問し、どのように組織され、かつ経営されているのかを調べた。幕府崩壊後の日本を、どういう国にしたらよいのか。

諭吉一行はまた、フランス政府の歓迎のプログラムとして、アレヴィ作曲の《ユダヤ女》をオペラ座で鑑賞したと言う。ユダヤ人が主人公である点が微妙なのか、今日では上演の機会が少なく、僕も一度見たきりである。初めて接する西欧の音楽劇を、福澤はどう感じただろう。

遣欧使節団は、訪れる各国でオペラや言語不明の芝居を見せられ、閉口したそうだ。

その120年後には、邦人作曲家が書いた日本語のオペラを、西洋人が歌うことになると、彼らに想像出来ただろうか？

福澤らの訪欧に関して、僕たちの関心は当然ながら、同胞が経験した事柄に向かいがちだが、1613年の志倉常長のローマ行き以来、実に250年ぶりだった日本人の欧州訪問が、彼らにどのような影響を与えたかを知ること大切だろう。

この点で興味深いのは、諭吉がパリで親しく交わったレオン・ド・ロニーの存在である。ロニーはただ一人、日本語を話せる通訳だった。「日本のヴォルテール」

#### スカウト歴

- ・1958年（S33）  
小学5年生の時  
カプスカウトは杉原隊長
- ・1959年（S34）  
ボーイは飯田隊長
- ・1965年（S40）  
高校まで。シニアで退団
- ・河内君、内藤君、加藤君  
と同年齢です。

福澤諭吉との出会いが、ロニーの日本への関心をいやましに高めたことは、想像に難くない。

ロニーは福澤と知己になった9年後、日本の詩歌の選集を出版している。日本語の発音と仏訳を掲げたものだが、その翌年、日本を題材にした恐らく※嚙矢のオペラ、サン=サーンス作曲の《黄色の姫君》に、この選集から万葉の歌が引用されている。

かくして、今から160年前に日仏の交流が始まり、その最後の50年を、僕はパリで過ごしたことになる。

そこで改めて、諭吉の言葉を問い直してみる。今の世界で西洋諸国を文明と言えるのか？

答は明らかにノーである。

西洋は18世紀の産業革命以来、物質的繁栄を至上の目的として追求して来た。人間の労少なくして最大の効率を得られる技術を革新すると共に、資源や市場を求めて他の国を植民地にした。

その結果、なにが起こったか？今や人間は、自らが作った道具に、支配されるようになったのである。パリも東京も、スマートフォンの奴隷に満ち々ちている。

あるいはロシアのウクライナ侵攻を人は非難するが、かつては同じことを多くの国が行なって来たのではなかったか？

第二次世界大戦で、たくさんの人々を簡便に殺戮出来る原子爆弾という技術革新が広島に投下された時、西洋文明は終わったのである。

その後の西洋は、黄昏の残照で輝いて見えるだけなのだ。

フランスもこの10年来、全き頹廢の時期に入った。僕は毎年一時帰国し、母国の変化を肌で感じて来た。残念ながら、日本もまた頹廢が始まっている。なぜか？西洋の物真似をしているからである。没落しつつある西欧の後を追って、何の益があるのか？

この国の真の独立を保つためには、今や西洋と距離を取り、日本独自の文明を築いて行かねばならない。半世紀に渡る在仏を経て、こういう思いを深くするのである。

※「嚙矢（こうし）」とは物事の始めをあらわす言葉です。嚙矢は矢の一種であり、開戦の合図に使われていた「鏑矢」のことです。

#### 【参考】

『文明論の概略』（岩波文庫）

『パリの福澤諭吉』（山口昌子著・中央公論新社）

『ジャポニスム』（宮崎克己著・講談社現代新書）。

#### ☆能オペラ《隅田川》（フランス政府委嘱作品）日本初演

能の《隅田川》を素材として作曲され、フランス各地で日本語の歌詞を2人の西洋人歌手が歌ったオペラが、日本人演奏家の手によって鳴り響きます。

時・2024年3月16日（土）

所・洗足学園シルバーマウンテン

問合せ・能オペラ《隅田川》日本初演実行委員会：

operasumidagawa@gmail.com

◎心に響く言葉：「足ることを知らば貧といへども富と名づくべし」（『往生要集』源信）

## 「還暦を迎えた地球をつなぐ友情の輪」



—スカウト歴—  
1954年ブラウニー入団、ガールスカウト、上級スカウトとしての活動を経てリーダーになる。  
1968年結婚を機に海外に暮らすため退団、  
2000年帰国後、スキップとして復帰、現在ガールスカウト東京4団副団員長

それは、ちょうど今から60年前の1963年のこと。私は、メキシコにあるアワ カバニアで開催されたジュリエット ロー セッションの日本代表の一人に選ばれたのでした。私が18歳の夏のことです。

もちろん私にとって初めての海外渡航でした。誰もが自由に海外に渡航できる今からは考えられないことですが、この当時の日本では、海外に出られるのは海外からの招待のある人に限られていた時代でした。パスポートも一回限りのもので、私のパスポートにも、はっきり「アメリカのガールスカウト連盟からの招待による」と記されています。

私が参加したジュリエット ロー セッションですが、カナダ、アメリカ、メキシコ、プエルトリコ、ブラジル、スイス、イタリア、フィンランド、オーストラリア、日本の10カ国から二人ずつの代表（アメリカは主催国なので7人）と、二人のアメリカ人のリーダー、計27人のスカウトとリーダーが、アワ カバニアで3週間一緒に暮らしたのでした。

共通語は英語です。私の英語力は27人のうちの最下位だったと思います。でも、そんなことお構いなしで、世界から集まったティーンエイジャーたちはすぐに友達になり、朝から深夜まで笑い声が絶えない3週間を送ったのでした。何しろみんなガールスカウトなので共通点がたくさんあるのです。それぞれの言葉で「約束」を唱え、スカウトソングを元よく歌いました。

午前中にはそれぞれの国の歴史や文化を学び合う時間がありました。私と京都からのOさんの二人も事前に準備してきたものを拙い英語で一生懸命プレゼンしました。まだまだ日本は世界に知られていない時代で（その翌年1964年に東京オリンピックが開かれ、やっと知られるようになりましたが。）みんな興味を持って聞いてくれました。お土産の交換もしたのですが、アメリカ人からもらったものがMade in Japanだったので、大笑いしたものでした。

自国のダンスを準備するように事前に連絡が入っていました。私は日本舞踊など習ったこともありませんしOさんと同様でした。東京と京都で離れているし（当時はまだ新幹線もありません！）、それでは「さくらさくら」の1曲だけ習いましょうか。ということで、各自準備することにして、私も日本舞踊の先生を見つけて、付け焼き刃で1曲だけ教えていただきました。

ある日、アワ カバニアで「オープンハウス」と言っ

## 木村（旧姓 田中）恵子

ンスをお願いしますということになったのです。さて、どうしましょう、と二人で相談した結果、ま、いいか、一緒に踊っちゃおう、ということになり、日本舞踊の先生が聞いたらひっくり返ってしまうことをやってのけたのでした。着物を着て、お扇子を持ち、「さくらさくらの」音楽に合わせて、それぞれ習ってきた全く違う流派の日本舞踊を一緒に踊ってしまったのです！会場からは割れんばかりの拍手をいただきました。

3週間の楽しいプログラムの最後の日、リーダーが、この友情を繋ぎ続けるために、1年に一度ニューズレターを発行したら？と提案がありました。私たちの中で一番リーダーシップのあったオーストラリアのケイが編集の役を引き受けてくれました。ニューズレターに名前をつけようと言うことで決まったのが、WATA JAROBU でした。私たちがいつも歌っていた

“We’ re All Together Again We’ re here we’ re here,” という歌の頭文字をとって WATA そして、私たちが滞在した3つの寄宿舎の名前、Jacarandas, Rosas, Buganvillas, の頭文字をつなげたものです。

当時はコピー機もない時代でした。今となってはケイがどうやってみんなの原稿を編集してそれぞれに送ってくれたのか・・・感謝のほかありません。今ではインターネットの時代になり、各自がメールで原稿を送るとメキシコのロシオが編集をして、あっという間にそのまま各自のパソコンに15ページものニューズレターが届くのです。この59年間、WATA JAROBUは途絶えたことはありませんでした。

それに加えて、子育てが終わった1988年から対面でのリユニオンも計画されました。5年ごとに世界のどこかで会いましょう、というのです。一番初めはリーダーのジュリーのミシガンのお家で。それ以降は仲間の誰かが主催者になって自分の国に招待することにしたのです。このリユニオンには夫や子どもたちなど家族も加わるので、大きなWATA JAROBUファミリーに成長しています。今までメキシコ、スイス、カリフォルニア、日本、オーストラリア、イタリア、ワシントンDC、カナダで行われています。私が計画した日本でのリユニオンには、たくさんの家族が参加したので、なんと36名もの参加者がありました。そして今年是我们が初めてアワ カバニアで会ってから60年になるのでプエルトリコでお祝いすることになっています。会う時はいつものように、ティンエイジャーの昔に戻ってしまうことでしょう。地球をつなぐ友情の輪に感謝！



（筆者、後列左から二人目）

## 霊南坂スカウトクラブ 告知板

### 【軽井沢ルバーブ工場】

8月最後の週末、4年ぶりに軽井沢ルバーブ工場が復活しました。猛暑の東京を脱出して、涼しい軽井沢を満喫です。



今年は西郷リーダーのご指導の下、矢澤、渡辺、檜垣の元スカウトが、20kgのルバーブを使い、150個のジャムを作りました。



ここでジャム作りの工程を紹介します。

- ① 材料買い出し、及び瓶の洗浄と煮沸消毒
- ② 材料計量とルバーブカット  
(初参加の渡辺さん、カットで大活躍！)



- ③ 煮込みと灰汁とり  
(ベテラン矢澤さん、汗だくで大奮闘！)
- ④ 熱いうちに瓶詰  
(真空状態にするため瓶の淵までジャムを注ぎ蓋閉)

この後、蓋を閉めた瓶の周りにこぼれたジャムを流水で洗い流しながら、殺菌のため、蓋をきつく締めるのですが、これが力技！ここでも渡辺さんが大活躍です。



夕飯はスカウト時代を思い出し、森に囲まれたウッドデッキでBBQ！ワイン&楽しいおしゃべりに乾杯。疲れもとれます。

(憧れの別荘ライフ)



最後に今回、渡辺さんから皆様にルバーブ工場へのお誘い！  
「SCの皆様も涼風静寂の軽井沢ルバーブ工場に参加しませんか」

(もちろん、西郷さんの御好意に甘えてのお誘いです)

ちなみに檜垣はBQQで頑張りました(笑)

(檜垣君子 記)

### 【召天者】

- ・藤井朋子姉
- ・中村秀美(旧姓菅野)姉

※59号本欄で、ご存命の石田隆一様を掲載してしまいました。誠に申し訳ありませんでした。お詫び申し上げます。

### 【スカウト催事予定】

スカウト合同クリスマス礼拝：12/9 15時

クリスマス総員礼拝：12/24 10:15

燭火礼拝：12/24 一部 18時

二部 21時

スカウトサンデー：2024年 2/18

イースター：3/31

### 会費の納入をお忘れではないですか？

スカウトクラブは現団への支援、会報印刷、通信費など、皆様の会費とバザーの収益金、賛助金で運営しています。毎年の納入をお願いいたします。

年会費 3000円/年

家族会員 2000円/年

入会金 1000円/入会時のみ

### 振込先「ゆうちょ銀行」

00170-4-765234

他行からの振込みの場合は下記宛てにお願い致します。

銀行名 : ゆうちょ銀行

店名(店番): ゼロイチキュー(019)

預金種目 : 当座

口座番号 : 0765234

口座名称 : 霊南坂スカウトクラブ

### 【霊南坂スカウトクラブ役員】

会長	西郷崇子
副会長	田中新二
会計	白井純一
総務	高玉 大 五十野和男
書記	檜垣君子 杉田憲彦
通信	西谷芳美 小田島典子
広報・団 会報	矢澤宏子 渡辺 博
H.P	白井純一
教会・団	内藤正樹
	ボーイスカウト団委員長 古谷久代
	ガールスカウト団委員長
監査	日下部英一

### 【編集後記】

韓国に於けるジャンボリーは大  
雨&猛暑ありで大変そうでした。  
しかし、それもキャンプと思いま  
す。スカウトがそれを乗り越えた  
自信は将来の大きな糧になると思  
います。お疲れ様でした。